

# 農業センター ニュース No.74

東京都小笠原  
亜熱帯農業センター(父島)  
Tel.04998-2-2104  
Fax.04998-2-2565  
営農研修所(母島)  
Tel.04998-3-2129  
Fax.04998-3-2006  
畜産指導所(母島)  
Tel.04998-3-2275  
Fax.04998-3-2276

## 2009「施設公開と園芸教室」を開催しました

4月19日(日)に農業センター本館及び試験・研究圃場において実施した施設公開について報告させていただきます。

当日は、前日からの大雨により開催も危ぶまれましたが、急速に天候も回復し、約250名の方々に御来場いただきました。今回の施設公開は、東京都が実施している平成21年度東京都科学技術週間の行事として開催しました。児童生徒や村民の方々に、農・畜・水産業に関する科学技術への関心と理解を深めることを目的としています。

施設公開は、大きく6つのコーナーを用意しました。1つめは、本館で試験成果展示コーナーとして、ポスターによる成果の展示や昆虫標本の展示を行いました。今年は水産センター、小笠原総合事務所植物防疫のコーナーなど関係機関の協力により例年よりも充実した内容となりました。

2つめは、園芸教室を開催しました。パッションフルーツの挿木、レモンの接木について実際の作業を体験してもらいました。

3つめは、公開エリア全体を活用したスタンブラリーを行いました。お子さんには、難しい問題もあったようですが、かなりの高得点となりました。全問正解者の中から抽選で、素敵なプレゼントもありました。

4つめは、果樹や野菜苗、観葉植物等の販売コーナーです。開会時間前より入念な品定めが始まり、開会まもなく売り切れとなる苗

木もありました。

5つめは、お子さんに大人気のヒヨコと遊ぶコーナーでした。母島の畜産指導所で羽化させたヒヨコで、閉会を過ぎてても名残惜しそうに遊ぶ姿に微笑ましく見えました。



写真 ヒヨコと遊ぶ

6つめは、丸太切りコーナーでした。アカギ、シマグワ、ギンネムの丸太をノコギリで切り落とし、切った丸太はお土産として持ち帰っていただきました。

7つめのコーナーとして、農業機械展示を用意する予定でしたが、雨天で準備が整わないため中止とさせていただきました。

今回は、アンケートにより、皆様方の御意見をお伺いさせていただきましたので、次回開催にむけ、改善を図っていきたく思います。御来場いただいた皆様方、ご協力いただいた関係機関の皆様方に、職員一同、深く感謝と御礼を申し上げます。 <金子>

### …… 土壌診断のお知らせ ……

生産者向けの土壌診断を6月に行います。関係者には農協を通じて後日、詳細をお知らせします。 <営農研修所 菊池>

## ～ 平成 20 年度 試験成績概要 ～

### ゴレンシの施設栽培のメリット

小笠原のゴレンシ(スターフルーツ)はほとんどが露地の畑で作られています。鉄骨ハウスでの栽培メリットを検討するために甘味系品種と酸味系品種をもちいて試験をしました。

甘味系品種は小振りで 80g/果ですが、A級の割合が 70%と高く、収量が 90～95kg/樹でした。酸味系品種は 100～300g/果と大きいですが、A級の割合や収量が甘味系品種よりも劣りました。250 m<sup>2</sup>の鉄骨ハウスで甘味系品種を栽培した場合の粗収益は、収量と農協の買い取り価格から約 100 万円と試算されました。また、露地栽培(10～12 月収穫)と施設栽培(1～4 月収穫)を組み合わせると、パッション(3～8 月)やマンゴー(7・8 月)の端境期に出荷できます。 < 宗 >

### アテモヤの生産技術開発

アテモヤは食味が良好で暑さにも強いことから、小笠原における新たな熱帯果樹として期待されています。そこで、安定生産技術開発を目指し、剪定時期、開花、結実率について試験を行いました。

(1) 剪定時期が開花、着果率に及ぼす影響

剪定時期を変えても、剪定してから約 30 日後に開花が始まり、開花期間は約 60 日間であることがわかりました。一方、平均着果率は剪定時期が遅くなるほど低下しました。

(2) 人工受粉時の気温と着果率との関係

7 月上～中旬、10 月上～中旬の気温が比較的低い時期では着果率が高く、気温が高い

盛夏期では着果率が低下しました。このことから、着果率は人工受粉時の気温に影響されていることがわかりました。 < 河野 >

### 父島、母島における

#### アフリカマイの分布と生息範囲の変動

アフリカマイマイはアフリカ原産の大型陸産貝類で、全世界的に農業被害を与えている有害動物です。小笠原には 1930 年代に定着したと考えられています。1985 年から父島 50 地点、母島 50 地点においてアフリカマイマイの定点調査を行い、本種の長期的な分布密度の変動を調査しています。

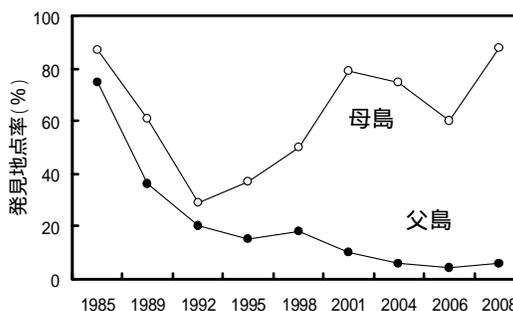


図1 アフリカマイマイの発見地点率の推移

父島では3地点で発見したのみでしたが、母島では乳房山山頂、南崎を除くすべての地点でアフリカマイマイが発見され、生息密度も父島よりも高いことがわかりました(図1)。

1980年代のアフリカマイマイは両島の広域に分布していましたが1980年代後半から分布域が急速に減少しました。父島ではその後も減少しつづけています。一方、母島では1990年代後半から再び分布域が拡大し始めています。そのため、母島では農作物を保護するために適切な防除対策が必要になっています。 < 近藤 >

リュウキュウミカンサビダニによる

カンキツ類の被害とその防除法

2005 年に父島および母島へのリュウキュウミカンサビダニの侵入が初めて確認され、それ以降、島の特産品であるカンキツ類に被害が発生しています。リュウキュウミカンサビダニに加害されると果実表面がサメ肌状になり商品価値が低下します。その防除法を確立するために、父島、母島のリュウキュウミカンサビダニの分布状況の把握と殺ダニ剤散布による防除試験を行いました。

表1 菊池レモンの収穫果の内訳

	リュウキュウミカンサビダニ被害	健全果	その他病害虫
殺ダニ剤散布	4%	70%	26%
殺ダニ剤無散布	43%	14%	43%

2008 年6～8月にカンキツ果実への寄生状況を調べたところ、両島の広範囲に分布を広げていることがわかりました。菊池レモンの栽培において、果実肥大期から収穫前までに殺ダニ剤を3剤散布したところ、リュウキュウミカンサビダニの被害を大幅に抑えることができました(表1)。 <近藤>

小笠原自生種の移植後の生育

(1)小笠原本来の植生を回復させるために自生植物を島内で増殖し、移植に適した条件を検討しています。農業センターで増殖した自生種を侵略的外来種の1つであるモクマオウ林に2007年12月から08年2月に移植しました。移植した自生種は、固有種のシマギョクシンカ(アカネ科)、タチテンノウメ(バラ科)、広分布種のウラジロエノキ(ニレ科)、シャリンバイ(バラ科)、シマカナメモチ(バラ科)の5種102株です。

1年後に生存したのは98株で生存率は96%でした。生長が優れていた種はウラジ

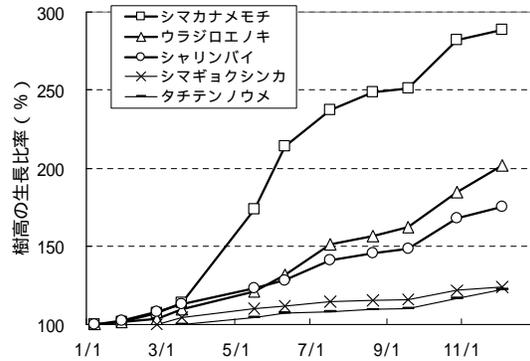


図2 モクマオウを伐採した場所に移植したときの樹高の生長比率

ロエノキとシマカナメモチで、モクマオウを伐採した場所に移植すると樹高が2～3倍になることがわかりました(図2)。 <宗>

2月18日に母島、25日に父島で行われた「平成20年度試験成績発表及び成果報告会」では、上記のほかに谷藤から果樹の経営指標について、営農研修所の菊池所長から(1)パッションフルーツの結果枝の管理と収量、(2)パッションフルーツの疫病対策、(3)スイートコーン、エダマメ、つるなしインゲンの試作、(4)ミニトマトの栽培と輸送試験、畜産指導所の森本所長から生ごみ処理物の有効利用として(1)堆肥としての利用(2)飼料としての利用について等の発表がありました。両島あわせて30名以上の方に聴講していただきました。その際のご意見は今後の研究に活かしていきます。

・・・ **成績書発行のお知らせ** ・・・

平成18・19年度の農業センターおよび畜産指導所の試験成果をまとめて冊子にしました。生産者および関係機関に送付中です。父島では福祉センターの図書室や農業センター、母島では営農研修所で閲覧ができます。是非、ご活用ください。 <宗>

## ～ キュウリの品種比較 ～

農業センターにおいてキュウリの品種比較調査を行いましたので報告します。

播種は平成 20 年 4 月 24 日、定植は 5 月 21 日（各品種 6 株）に行いました。供試した品種は「フリーダム」、「よしなり」、「つばさ」、「夏すずみ」の 4 品種です。

### 【生育について】

定植は株間 70 cm で行い、側枝は 2 節で切除し、施肥については慣行通りとしました。生育中期でうどんこ病、中～後期にかけてべと病、ネコブ病の発生が見られましたが、適宜、薬剤散布等防除を行いました。

### 【収量について】

収穫始めは 6 月 10 日前後で品種による差はほとんどありませんでした。収穫期間は「つばさ」が 50 日間と最も短く「夏すずみ」が 63 日間と最も長くなりました。

収量については「夏すずみ」が 37.6 kg と最も多く、次いで「フリーダム」が 26.3 kg となりました。秀品率は「フリーダム」が 62.3% と最も高くなりました。また、初期収量については「フリーダム」が高い傾向にありました。

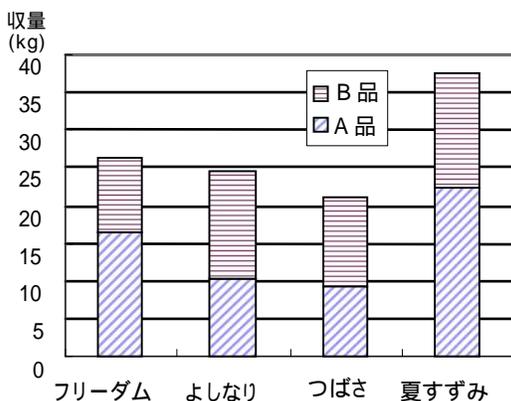


図 品種別収量

### 【品種の特徴】

フリーダム（サタ）…近年、栽培が増えているイボなし品種。果皮にトゲがないので果実同士でキズをつけることがほとんどない。曲がり少なく秀品率が高い。葉色・果皮色が他品種と比べてやや淡い。草勢が強く側枝の発生が多い。

よしなり（サタ）…べと病に耐病性。果長が他品種と比較してやや短い。

つばさ（タイ）…耐暑性の強い品種。果皮色が濃緑色。食味良。夏秋栽培用の品種。

夏すずみ（タイ）…都内で最も多く栽培されている品種。果皮色が濃緑色。作りやすく食味の評価も高い。



写真 各品種の収穫物

### 【最後に】

キュウリは年間を通して需要が高く、直売所等においても「島きゅうり」として人気の野菜となっています。小笠原では年間を通した栽培も可能です。食味や外観で差別化を図り、売上げアップにつなげてみてはいかがでしょうか。

< 野沢・河野 >

## 市場動向(マンゴー)

近年、需要拡大が著しいマンゴーの生産、市場動向について、今回は、輸入動向をご紹介します。

### (1) 拡大するマンゴーの輸入

直近の国内輸入量は、2008年(平成20年)実績で11,590トン、金額ベースで約50億円に達しています。国内生産量は、現在2千トン程度ですので、国内流通量は、約1万4,000トン、うち輸入が85%、国産が15%程度と推定されます。

1998年(平成10年)には、輸入量は約9,000トンですので、この10年で約30%ほど輸入量が拡大しています。

現在では、このようなマンゴーの輸入拡大は、他の輸入フルーツであるパパイア、グレープフルーツ、オレンジ類などと消費者の需要を取り合う形にまでなっています。

### (2) 国別輸入動向

2008年(平成20年)実績では、数量、金額ともメキシコが最も大きく、約5,300トン(46%)、約19億円(38%)となっています。次いでフィリピンが約3,000億円(26%)、約12億円(24%)、次がタイとなっています。

メキシコからは、「ケント」「ヘイデン」といったアップルマンゴー系が輸入されており、3～9月ころの入荷で、6～7月がピークとなっています。品質への評価も高いといわれています。国産品の「アーウィン」など、アップルマンゴー系の認知度が上昇するとともに、常食用、贈答用としての需要が拡大していると、業界はみています。

フィリピンからは「カラバオ」といったペリカンマンゴーが多く輸入されており、輸入のピークは4～5月で周年取引があります。スーパーや小売店で比較的安値で販売されています。

このほか、現在はまだ入荷量は少ないですが、オーストラリアからも輸入され贈答用などを中心に取引されているようです。南半球なので日本とは季節が逆になる関係上、品薄期に出荷ができ、高単価を付けています。

### (3) 業界の今後の輸入見通し

東京税関が、業界から聞き取りを行った今後のマンゴーの輸入見通しを紹介します。

マンゴーブームで国産品、輸入品とも一般の認知度が上がったことにより、輸入は今後も定着していく。

国内産マンゴーが贈答品などの用途が多いのに対して、輸入マンゴーは常食用としても増加が見込まれる。

潜在的な需要(推定2万トン、現在の推定流通量の約4割増)があるので、輸出国の拡大による増加が見込まれる。

ということです。

### (4) これから

国産品と輸入品は、これまで用途や価格面で住み分けをしてきました。しかし、一部の輸入品は高品質で贈答需要など国産品とも競合するようになってきました。

今後も、国産マンゴーの需要は堅調との市場の見方もありますが、高品質な生産物をつくり、安定的な取引先を確保するよう努力を続けることが大切です。 <谷藤>

## ～ 着任職員紹介 ～

かねこ ふみゆき  
**金子 章敬 所長**



この度、農業センター所長として着任いたしました金子章敬です。前任の職場（農業振興事務所）では、都民への農業研修や獣害防止対策事業、公共用緑化木の生産供給等に関わる仕事をしてまいりました。小笠原への赴任と試験・研究職場は、初めての経験となりますが、小笠原の農業振興に貢献できるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

ばば たかし  
**馬場 隆 研究員**



このたび、農業センターに赴任しました馬場隆です。小笠原は二度目、13年ぶりの赴任です。内地での大半は東京都農林総合研究センター（旧農業試験場）で稲、サツマイモ等の穀類の研究に従事していました。今回は果樹の栽培研究を担当することになりました。農業を通して小笠原の産業振興に寄与したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

平成21年4月1日付けで小嶋 禎夫所長および河野 章研究員は（財）東京都農林総合研究センターへ異動となりました。

・・・・・・長い間お世話になりました。・・・・・・

農業センターニュースは小笠原亜熱帯農業センターのホームページにも掲載しております。ホームページでは写真がカラーで見やすくなっておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/32.htm>

また、Eメール配信も行っております。御希望の方は下記アドレスまで御連絡ください。

[ogasawara-nouse@tree.odn.ne.jp](mailto:ogasawara-nouse@tree.odn.ne.jp)